



弔 辞

本学会元副会長 塚本洋太郎先生は、去る平成 17 年 3 月 12 日、老衰のため、ご自宅において逝去されました(葬儀は翌 13 日近親者のみにて行われました)。享年 93 歳でした。

先生は、明治 45 年 1 月 3 日、現大韓民国の大邱市でお生まれになり、昭和 12 年京都帝国大学農学部をご卒業後、同大学農学部の助手として勤務されました。昭和 17 年、大阪府立園芸学校に教諭として移られ、大阪農業専門学校教授、浪速大学教授を経て、昭和 27 年京都大学農学部教授に就任、蔬菜花卉園芸学講座を担当されました。23 年間の在職中、数多くの研究業績を残されるとともに、多くの学生・院生および後進を育てられました。停年退官後は南九州大学教授として同大学の発展に尽力されました。この間、植物化学調節研究会会長・顧問、フラワーサイエティー会長、日本学術会議会員(第 10 期)、中日園芸文化協会会長、国際樹木学会副会長、国際花と緑の博覧会協会副会長など数々の学術団体・協会の要職を歴任されました。

園芸学会にあっては、昭和 33 年~47 年まで 6 期連続で評議員を務められ(昭和 33 年~38 年までは編集幹事を兼務)、昭和 47 年~50 年には学会副会長として、園芸学会の運営・発展に尽力されました。

先生は、花卉園芸学、中でも植物ホルモンに関する研究において優れた研究業績を残され、園芸植物の休眠打破や開花調節の研究において多大の貢献をされました。研究成果を国際会議や国際シンポジウムで頻りに発表され、わが国のこの分野での研究を国際レベルにまで高められました。昭和 49 年、この一連の研究により、日本農学賞、読売農学賞を受賞されています。終戦後、学問としてまだ未熟であった花卉園芸学を科学として発展させ、その成果を『花卉総論』に纏められました。先生は猛烈な読書家で、その博識を活かして、花卉園芸に関する数々の啓蒙書も執筆されました。また、数多くの植物図鑑の著者であることは学会員の広く知るところであり、中でも『園芸植物大事典』は世界的にも類をみない大図鑑として高く評価されています。

先生は几帳面なご性格で、蔵書・文献・スライドを晩年に至るまできちっと整理しておられました。一線を退かれてなお外国文献を読まれ、その要約をワードプロセッサに記録しておられました。

ここに先生のご功績・お人柄を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成 17 年 4 月 25 日

園 芸 学 会

塚本洋太郎博士 略歴・業績

略 歴

昭和 12年 3月	京都帝国大学農学部農学科卒業	昭和 50年 3月	京都大学定年退官
昭和 12年 9月	京都大学農学部助手	昭和 50年 4月	京都大学名誉教授
昭和 17年 1月	大阪府立園芸学校教諭	昭和 51年 4月	植物化学調節研究会顧問
昭和 20年 4月	大阪農業専門学校教授	昭和 51年 4月	中日園芸文化協会会長
昭和 22年 4月	園芸学会菊池賞受賞	昭和 53年 4月	南九州大学教授
昭和 24年 4月	浪速大学教授	昭和 56年 10月	日本菊花芸術協会会長
昭和 27年 8月	京都大学農学部教授	昭和 58年 1月	日本生物環境調節学会名誉会員
昭和 28年 12月	京都大学農学部附属農場長	昭和 58年 12月	国際樹木学会副会長
昭和 29年 4月	農業資材審議会委員	昭和 59年 11月	勲三等旭日中綬章受賞
昭和 44年 3月	京都大学評議員	昭和 61年 5月	財団法人国際花と緑の博覧会協会副会長
昭和 47年 4月	園芸学会副会長	平成 3年 3月	第9回京都府文化賞特別功労賞受賞
昭和 49年 4月	日本農学賞・読売農学賞受賞	平成 5年 1月	松下山幸之助花の万博記念賞受賞
昭和 49年 4月	植物化学調節研究会会長		
昭和 49年 5月	フラワーソサイエティー会長		
昭和 50年 1月	日本学術会議会員(第10期)		

業 績

主要編著書

1. 花卉汎論. 養賢堂. 1952.
2. 原色花卉図鑑 上・下. 保育社. 1955.
3. 花卉園芸講座 1~3巻(編著). 朝倉書店. 1957.
4. 花卉総論. 養賢堂. 1969.
5. 園芸植物と開花調節(編集). 誠文堂.
6. 花の美術と歴史. 河出書房新社. 1975.
7. 園芸の時代. 日本放送出版協会. 1978.
8. 園芸植物大事典(総監修・執筆). 1994.

主要論文

1. 光中断による切花の促成と抑制. 園学雑. 22: 177-182. 1953.
2. 花芽形成物質. 園芸学研究集録第6集. P. 147-152. 1953.
3. グラジオラス球茎の休眠(第1報). 園学雑. 23: 16-20. 1954.
4. グラジオラス球茎の休眠(第2報). 園学雑. 25: 133-140. 1956.
5. 花卉の肥料に関する研究(第1報)アマリリスの肥料. 園学雑. 25: 208-212. 1956.
6. 冷温処理によるタマネギの開花促進の研究. 京都大学食糧科学研究所報告. 20: 1-12. 1957.
7. Dormancy of gladiolus corms (V). The fluctuation in auxin and inhibitor contents in the gladiolus corms. J. Hort. Assoc. Japan 28: 59-64. 1959.
8. Aus der Heimat der Moorbeetpflanzen In Japan heimische Azaleen. Gartenwelt 59: 425-426. 1959.
9. Dormancy of gladiolus corms VI. Effects of temperature treatment on breaking dormancy of gladiolus corms stored in a storage room and of those grown under different day-length. Plant & Cell Physiol. 1: 221-230. 1960.
10. Effect of light during vernalization on flowering of stocks (*Mathiola incana*). J. Hort. Assoc. Japan 29: 70-76. 1960.
11. 園芸作物の開花に関する二, 三の問題. 日本植物生理学会報 1: 41-44. 1960.
12. 花卉球根類の産地問題と研究の成果. 育種学最近の進歩. 2: 102-107. 1961.
13. Changes of endogenous growth substances in Easter lily as effected by cooling. Acta Hort. 23: 75-81. 1971.
14. Breaking dormancy in the gladiolus corm with cytokinins. Proc. Japan Acad. 48: 34-38. 1972.
15. Changes in endogenous growth regulators in the gladiolus corm during dormancy. Physiol. Plant. 26: 244-249. 1972.
16. Breaking dormancy of potato tuber bud with cytokinins. Memoirs of the Research Institute for Food Science, Kyoto University 33: 11-19. 1972.
17. 球根作物の休眠問題. 植物の化学調節. 8: 21-30. 1973.
18. Inhibitors concerned in the dormancy of the gladiolus corm. J. Japan. Soc. Hort. Sci. 42: 35-39. 1973.